

「サマーフェスティバル in かんてんぐら (ライトアップ) 及び「地域資源を観光に活かすフォーラム」事業

取組に至る背景・事業の目的

- 八ヶ岳山麓に多く見られる「くら」は、木と土を組み合わせ、寒さの厳しい気候に適応した地域文化の象徴である。この地域資源を見直そうと、住民有志が「くらフォーラム in 八ヶ岳」実行委員会を組織した。
- 「くら」の文化的な背景に焦点をあて、現地調査に基づく報告を踏まえて、山麓の社会に活かす上で、共有できる青写真を提案する場と捉え、この地域から新たな取り組みの情報発信と情報交換の場にすることを目的とする。

事業内容

- 「サマーフェスティバル in かんてんぐら (ライトアップ)」の実施
平成22年8月8日(日)～8月14日(土)
会場：茅野市宮川 かんてんぐら
音楽演奏、抹茶サービス、くら解説等
- 「地域資源を観光に活かすフォーラム」の開催
平成22年10月17日(日)
くらの飾りである「こて絵」の専門家を講師に招き、伝統文化を観光誘客の方策として探るフォーラムの開催



【サマーフェスティバル in かんてんぐら】

事業効果

- 「サマーフェスティバル in かんてんぐら」参加者 約600人
「くら」の所有者をはじめ地域住民は、その貴重な価値と効用に関心が薄いため、帰省客と観光客が訪れる時期に開催することにより、再評価と新たな活用への意欲を創出した。
- 「地域資源を観光に活かすフォーラム」参加者 約100人
「こて絵」が全国的にみても、数の集積と図柄が特異なものであり、愛好家のメッカであることが判明し、今後の活用に期待ができる。

工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

- イベントの開催については、効果的な時期に行い、集客力を高めるため、近隣農家による野菜市の開催や、1週間連続の芸能イベント(JAZZ、郷土芸能、民謡、クラシック等)を行い、実施内容を工夫した。フォーラムについてもテーマ設定と講師選定、会場選択について、多くの方が参加できる工夫を行った。
- イベント出演者のスケジュール調整、フォーラムの講師及び会場等の日程調整について、十分な準備期間が必要であり、また、広報PRのために既存のメディアを利用すると費用がかかり過ぎることに苦労しながら実施した。

【選定のポイント】

地域の産業・伝統文化遺産である「寒天蔵」といった地域資源を地域住民が再認識するきっかけとなり、くら文化の発信、くらを活用したまちづくり意識の更なる醸成につながった。

団体名	「くらフォーラム in 八ヶ岳」実行委員会 (茅野市)	事業タイプ	ソフト事業
連絡先	事務局 朝倉 清 電話 0266-78-2442	事業費	1,230,775円
		支援金額	1,016,000円